

### 平成27年産水稻の収穫量（熊本）

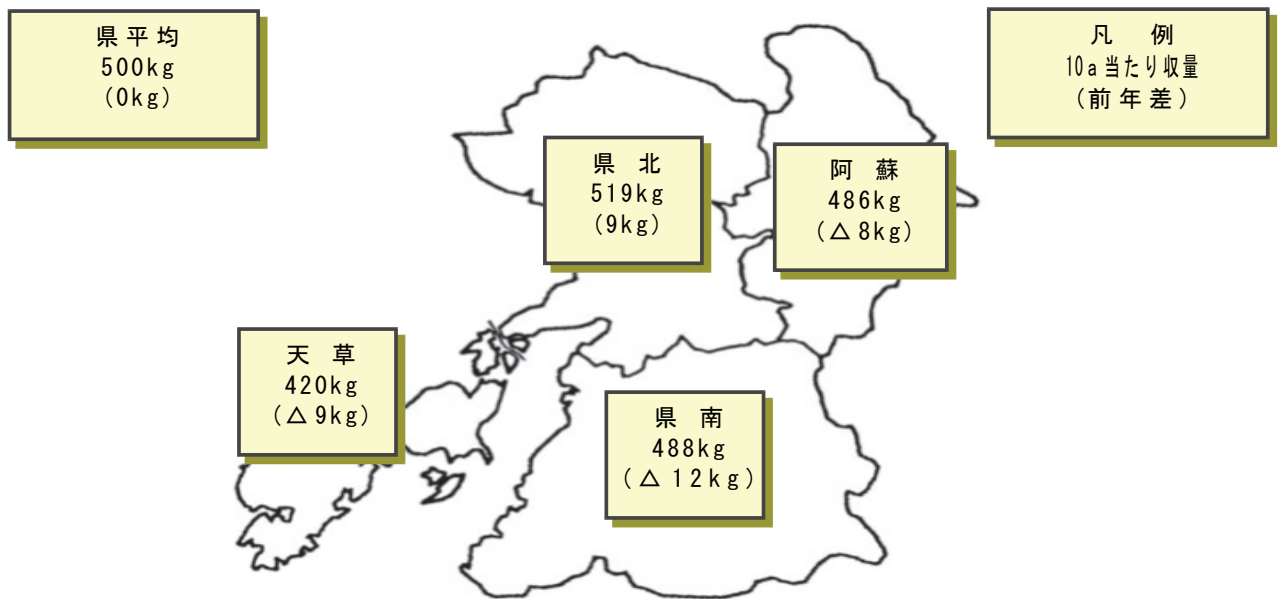
水稻の10a当たり収量は平年を下回る500kg（前年産並み）  
 収穫量（主食用）は17万1,500t（前年産に比べ9,000t減少）

#### 【調査結果の概要】

熊本県における平成27年産水稻の作柄は、生育全般での日照不足等の影響による生育の遅れ、いもち病及び台風第15号の通過に伴うもみずれや葉ずれ等の被害により、10a当たり収量は平年を下回る500kg（前年産並み）、収穫量（子実用）は17万8,000tとなりました。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は17万1,500t（前年産に比べ9,000t減少）となりました。

図1 作柄表示地帯別10a当たり収量



- 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は3ページに掲載しています。
- 収穫量（子実用）とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積に10a当たり収量を乗じたものです。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。

本統計調査結果は、九州農政局ホームページ「統計情報」の「九州の農林水産統計データ」で御覧いただけます。  
 【[http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht\\_all\\_press.html](http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_all_press.html)】

この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の概要】12ページに掲載しています。

## 【調査結果】

### 1 作柄概況

熊本県における平成27年産水稻の作柄は、生育期間が低温・日照不足で推移したため、穂数が平年に比べ少なく、全もみ数は1穂当たりもみ数が補償作用で多くなったことから、平年並みになりましたが、登熟が低温・日照不足による生育の遅れ、いもち病及び台風第15号の通過に伴うもみずれや葉ずれ等の被害によりやや不良となったため、10 a 当たり収量は平年を下回る500kg（前年産並み）となりました。

なお、熊本県内の作柄表示地帯別の概況は以下のとおりです。

#### (1) 県北地帯

全もみ数は、穂数が「少ない」となり、その補償作用で1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや少ない」となりました。

登熟は、低温・日照不足による生育の遅れや台風第15号のもみずれ・葉ずれ等の影響があったものの、9月中旬以降天候が回復したことにより「平年並み」となりました。

このことから、10 a 当たり収量は平年を下回る519kg（作柄の悪かった前年産に比べ9kg増加）となりました。

#### (2) 阿蘇地帯

全もみ数は、穂数が「平年並み」となり、1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや多い」となりました。

登熟は、5月早植えのコシヒカリについては、8月中旬～9月上旬の日照不足による粒の肥大不足、その他の品種（あきげしき、ヒノヒカリ）については、8月中旬～9月上旬までの日照不足と合わせて、穂いもちの拡大及び台風第15号によるもみずれ等の発生により「不良」となりました。

このことから、10 a 当たり収量は平年を下回る486kg（同8kg減少）となりました。

#### (3) 県南地帯

全もみ数は、穂数が「少ない」となり、その補償作用で1穂当たりもみ数が「多い」となったことから「平年並み」となりました。

登熟は、台風第15号の通過に伴い、早植えのキヌヒカリの倒伏及び普通期のヒノヒカリ等で、もみずれ等の発生により不稔粒が増加したと合わせて、8月中旬～9月上旬の日照不足、穂いもちの拡大により「やや不良」となりました。

このことから、10 a 当たり収量は平年を下回る488kg（同12kg減少）となりました。

#### (4) 天草地帯

全もみ数は、穂数は「少ない」となり、その補償作用で1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや少ない」となりました。

登熟は、早期水稻が平年並みとなったこと、普通期は台風第15号のもみずれ・葉ずれ等の影響があったものの、9月中旬以降天候が回復したことにより全体では「平年並み」となりました。

このことから、10 a 当たり収量は平年を下回る420kg（同9kg減少）となりました。

### 2 収穫量

収穫量（子実用）は17万8,000tで前年産に比べ9,500tの減少となりました。

また、主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、17万1,500tで前年産

に比べ9,000tの減少となりました。

### 3 被害状況

気象被害は、低温・日照不足による生育被害（分けつの抑制）及び台風第15号によるもみずれ・葉ずれ等がみられました。

病害では、8月中旬～9月上旬の低温・日照不足により穂いもちが拡大し、特に中山間地を中心に、いもち病の被害が平年に比べ多くなりました。

虫害等ではスクミリンゴガイの発生が平年に比べ多くなったものの、トビイロウンカについては平年より少ない発生となり、総じて被害は少なくなりました。

なお、中山間地域ではイノシシによる被害が平年より多く発生しました。

総体的に被害は「やや多い」となりました。

**表 1 平成27年産水稻の作付面積及び収量**

区分	作付面積 (子実用) ①	10a当たり収量		収穫量(子実用)		参 考	
		実数 ②	前年産 との比較	実 数 ③=①×②	前年産 との比較	主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②
			対差		対 差		
熊 本	ha 35,600	kg 500	kg 0	t 178,000	t △ 9,500	ha 34,300	t 171,500

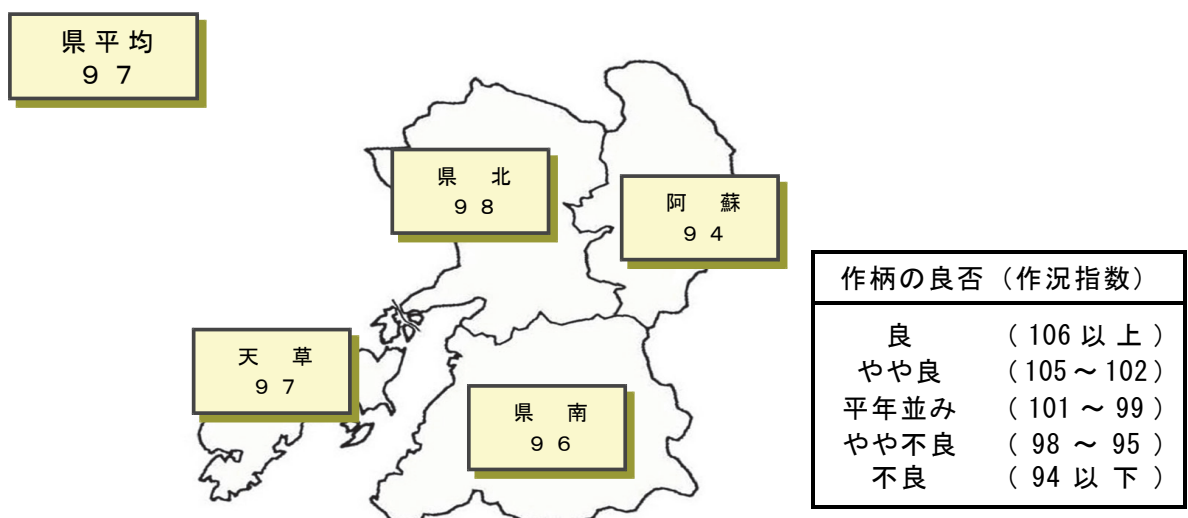
注：1 作付面積（子実用）①は、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です。

2 10a当たり収量②は、1.7mmふるい目幅で選別された玄米の重量です。

3 主食用作付面積④とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。

4 「△」は、前年より減少したことを示します。

**図 2 作柄表示地帯別作況指数  
【農家等が使用しているふるい目幅ベース】**



注： 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。

平成27年産から農家等が使用しているふるい目幅ベースで算出しており、九州においては1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

表2 地帯別の作柄概況

区 分	10a 当たり 収 量  ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別			平 年 比 較			
		10a 当たり 収 量  ②	10a 当たり 平年収量  ③	作況指数  ④=②/③	穂 数 の 多 少	1 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
県平均	500	484	499	97	少ない	多い	平年並み	やや不良
県北	519	502	510	98	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
阿蘇	486	463	492	94	平年並み	やや多い	やや多い	不良
県南	488	475	497	96	少ない	多い	平年並み	やや不良
天草	420	412	425	97	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み

注：1 10a 当たり収量①は、1.7mmふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別については、九州においては1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

表3 平成27年産水稻の地帯別刈り取り状況

区 分	刈 取 期							
	始 期		最盛期		終 期		最盛期の比較	
							対平 年差	対前 年差
月	日	月	日	月	日			
県平均	8.	18	10.	11	10.	29	3日遅	1日遅
県北	10.	4	10.	18	10.	30	3日遅	1日遅
阿蘇	9.	15	10.	9	10.	26	6日遅	1日遅
県南	9.	10	10.	13	10.	31	6日遅	4日遅
天草	8.	4	8.	11	10.	12	3日遅	1日遅

注：刈取期の始期とは刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

表4 平成27年産水稻の収量構成要素（水稻作況標本筆調査成績）

	1 m <sup>2</sup> 当たり株数		1 株 当たり有効穂数		1 m <sup>2</sup> 当たり有効穂数		1 穂 当たりもみ数		1 m <sup>2</sup> 当たり全もみ数		千 も み 当 たり 収 量	
	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比
熊 本	株 % 15.5 96	本 % 23.2 97	本 % 359 93	粒 % 81.1 106	百粒 % 291 99	g % 17.5 98						

	粗 玄 米 粒 数 歩 合		玄 米 粒 数 歩 合		玄 米 千 粒 重		10 a 当 たり 粗 玄 米 重		玄 米 重 歩 合		10 a 当 たり 玄 米 重	
	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比
熊 本	% % 86.6 97	% % 93.7 100	g % 21.6 101	kg % 530 97	% % 96.2 100	kg % 510 97						

表5 平成27年産水稻の被害面積及び被害量

被 害 種 類	被 害 面 積	被 害 量	
		実数	構成比
<b>総 数</b>	ha <b>118,900</b>	t <b>24,700</b>	% <b>100.0</b>
うち 気 象 被 害	70,900	14,500	58.7
風 水 害	35,300	3,240	( 13.1 )
日 照 不 足	35,600	11,300	( 45.7 )
うち 病 害	29,600	7,190	29.1
い も ち 病	12,500	5,350	( 21.7 )
紋 枯 病	5,680	794	( 3.2 )
うち 虫 害	15,700	1,850	7.5
ウ ン カ	2,340	944	( 3.8 )
カ メ ム シ	820	57	( 0.2 )
うち そ の 他	2,700	1,160	4.7

- 注：1 被害面積は、同一地域で2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上しています。  
 2 被害量構成比における括弧の比率については、被害量総数に対する割合のため、各被害の小計の割合と一致しない場合があります。

【参考 1】

平成27年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（10ページ【参考3】参照）。  
農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりです。

表6 ふるい目幅別重量分布状況

区 分		計	ふるい目幅					
			1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
県平均	重量割合(%)	100.0	1.2	2.1	2.6	3.5	17.9	72.7
	平均値	100.0	1.2	1.9	3.0	4.0	20.7	69.2
	対平均差	0.0	0.0	0.2 △	0.4 △	0.5 △	2.8	3.5
県北	重量割合(%)	100.0	1.1	2.2	2.3	3.4	17.6	73.4
	平均値	100.0	1.2	2.2	3.4	4.6	23.3	65.3
	対平均差	0.0	△ 0.1	0.0 △	1.1 △	1.2 △	5.7	8.1
阿蘇	重量割合(%)	100.0	1.6	3.1	3.2	4.3	20.4	67.4
	平均値	100.0	1.3	2.1	3.2	4.2	20.6	68.6
	対平均差	0.0	0.3	1.0	0.0	0.1 △	0.2 △	1.2
県南	重量割合(%)	100.0	1.1	1.6	3.0	3.5	17.7	73.1
	平均値	100.0	1.0	1.5	2.3	3.2	16.6	75.4
	対平均差	0.0	0.1	0.1	0.7	0.3	1.1 △	2.3
天草	重量割合(%)	100.0	0.8	1.2	1.6	2.5	14.2	79.7
	平均値	100.0	1.1	1.5	1.7	2.6	13.6	79.5
	対平均差	0.0	△ 0.3 △	0.3 △	0.1 △	0.1 △	0.6	0.2

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

表7 ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)

区 分		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm
		選別	選別	選別	選別	選別	選別
県平均	10a当たり収量(kg)	500	494	484	471	453	364
	収穫量(子実用)(t)	178,000	175,900	172,100	167,500	161,300	129,400
県北	10a当たり収量(kg)	519	513	502	490	472	381
	収穫量(子実用)(t)	96,500	95,400	93,300	91,100	87,800	70,800
阿蘇	10a当たり収量(kg)	486	478	463	448	427	328
	収穫量(子実用)(t)	28,700	28,200	27,400	26,400	25,200	19,300
県南	10a当たり収量(kg)	488	483	475	460	443	357
	収穫量(子実用)(t)	44,600	44,100	43,400	42,100	40,500	32,600
天草	10a当たり収量(kg)	420	417	412	405	394	335
	収穫量(子実用)(t)	8,270	8,200	8,110	7,970	7,770	6,590

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

2 ふるい目幅別の収穫量(子実用)とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

3 地帯別の収穫量(子実用)はラウンドしているため、地帯ごとの積上げ値と県平均(計)は一致しません。

**表8 水稻における農家等が使用したふるい目幅の分布**

【平成27年産水稻作況標本（基準）筆農家からの聞き取り結果】

単位：%

区分	計	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm 以上
熊本	100.0	-	2.1	35.4	60.1	2.4	-

注：この表は水稻作況標本(基準)筆農家が選別に使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものです。

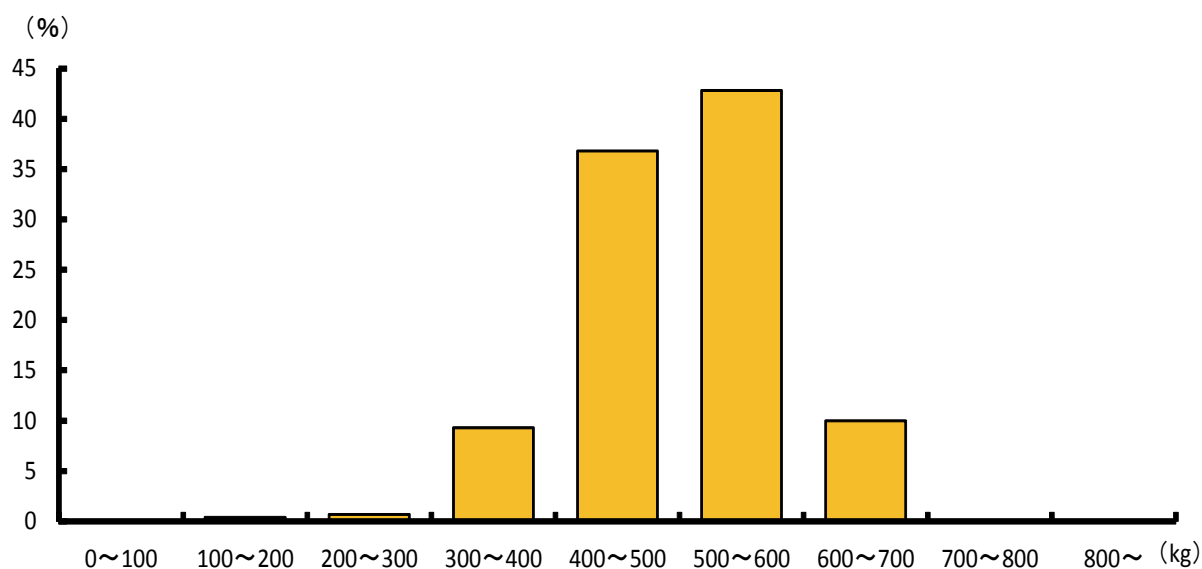
**表9 平成27年産水稻作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況**

単位：%

区分	計	100kg 未満	100 ~200	200 ~300	300 ~400	400 ~500	500 ~600	600 ~700	700 ~800	800kg 以上
熊本 筆数割合	100.0	-	0.4	0.7	9.3	36.8	42.8	10.0	-	-

注：10a 当たり玄米重は1.70mmふるい目幅で選別された玄米の重量です。

**図3 平成27年産水稻作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況（熊本）**



【参考 2】

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定め  
ることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しの  
ための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫  
量算定のための資料

累年データ

表10 水稲(子実用)の年次別推移(熊本)

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 元 年産	52,800	517	273,000	…	…	106
2	52,200	497	259,400	…	…	101
3	51,300	416	213,400	…	…	84
4	53,000	492	260,800	…	…	100
5	53,500	378	202,200	…	…	77
6	56,600	570	322,600	…	…	115
7	52,400	522	273,500	…	…	106
8	49,200	512	251,900	…	…	104
9	48,800	495	241,600	…	…	100
10	45,200	515	232,800	…	…	104
11	44,900	407	182,700	…	…	81
12	44,000	517	227,500	…	…	102
13	42,700	522	222,900	…	…	103
14	41,900	523	219,100	…	…	103
15	40,800	491	200,300	…	…	96
16	42,300	396	167,500	…	…	77
17	42,600	479	204,100	…	…	93
18	42,000	440	184,800	…	…	85
19	41,000	513	210,300	…	…	100
20	39,700	522	207,200	39,300	205,100	101
21	39,700	515	204,500	39,200	201,900	100
22	39,500	512	202,200	39,100	200,200	99
23	37,900	519	196,700	37,300	193,600	101
24	38,100	501	190,900	37,600	188,400	97
25	38,400	502	192,800	37,500	188,300	97
26	37,500	500	187,500	36,100	180,500	97
27	35,600	500	178,000	34,300	171,500	97

資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です。

2 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。

3 作況指数は、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米、平成27年産は、全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

4 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示しています。



表11 ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位:%

年 産	計	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm 以 上
平成18年産	100.0	2.1	3.3	4.7	8.6	35.3	46.0
19	100.0	1.1	1.8	2.6	4.2	22.3	68.0
20	100.0	1.7	2.4	2.9	4.8	22.9	65.3
21	100.0	1.2	1.8	2.7	4.4	23.5	66.4
22	100.0	0.8	1.4	2.2	3.0	15.9	76.7
23	100.0	1.2	1.9	2.7	3.5	19.4	71.3
24	100.0	1.2	1.8	3.0	4.1	21.5	68.4
25	100.0	1.2	2.0	3.6	5.3	23.7	64.2
26	100.0	1.4	2.4	3.3	4.0	20.8	68.1
27	100.0	1.2	2.1	2.6	3.5	17.9	72.7
平均 値	100.0	1.2	1.9	3.0	4.0	20.7	69.2
対平均差	0.0	0.0	0.2	△ 0.4	△ 0.5	△ 2.8	3.5

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

表12 ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産		1.70mm 選 別	1.75mm 選 別	1.80mm 選 別	1.85mm 選 別	1.90mm 選 別	2.00mm 選 別
平成18年産	10a 当たり収量 (kg)	440	431	416	396	358	202
19	10a 当たり収量 (kg)	513	507	498	485	463	349
20	10a 当たり収量 (kg)	522	513	501	485	460	341
21	10a 当たり収量 (kg)	515	509	500	486	463	342
22	10a 当たり収量 (kg)	512	408	501	489	474	393
23	10a 当たり収量 (kg)	519	513	503	489	471	370
24	10a 当たり収量 (kg)	501	495	486	471	450	343
	収 穫 量 (t)	190,900	188,600	185,200	179,400	171,600	130,600
25	10a 当たり収量 (kg)	502	496	486	468	441	322
	収 穫 量 (t)	192,800	190,500	186,600	179,700	169,500	123,800
26	10a 当たり収量 (kg)	500	493	481	465	445	341
	収 穫 量 (t)	187,500	184,900	180,400	174,200	166,700	127,700
27	10a 当たり収量 (kg)	500	494	484	471	453	364
	収 穫 量 (t)	178,000	175,900	172,100	167,500	161,300	129,400
	対 前 年 比 (%)	94.9	95.1	95.4	96.2	96.8	101.3

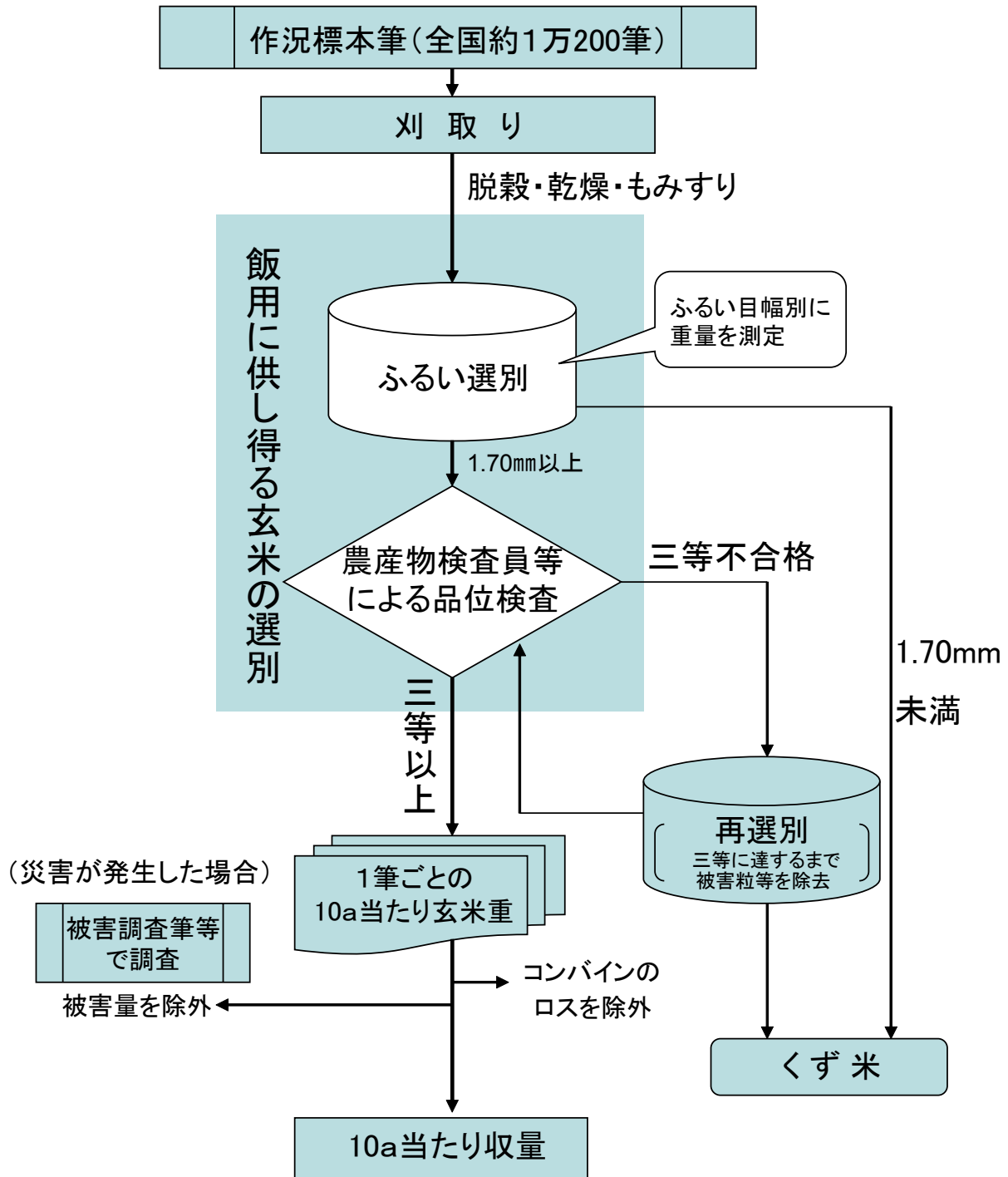
注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、県計の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

2 ふるい目幅別の収穫量(子実用)とは、県計の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

3 ふるい目幅別の収穫量(子実用)については、平成24年産より集計・公表を行っています。

## 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考4】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考 4】

作況標本筆<sup>ふで</sup>とは

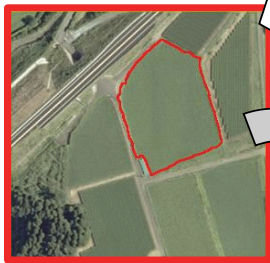
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し（全国で1万200筆<sup>ふで</sup>）調査している。

全国の全ての土地  
(母集団)



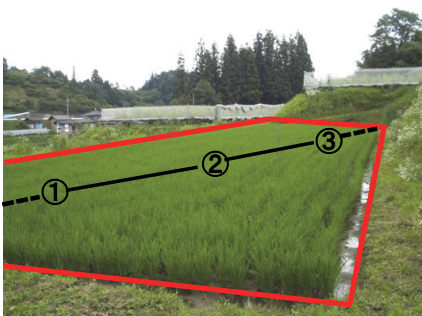
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区  
(200m四方の土地)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆  
(全国で1万200筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

### 2 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：898単位区 巡回・見積り：45市町村

(2) 収穫量調査

作況標本筆：280筆 作況基準筆：16筆 巡回・見積り：45市町村

### 3 調査事項

(1) 作付面積調査

水稲の作付面積

(2) 収穫量調査

登熟状況、10a当たり収量、被害状況、被害種別被害面積・被害量、耕種条件等

### 4 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

### 5 調査方法

(1) 作付面積調査

標本単位区に対する職員又は統計調査員による実測調査及び職員による巡回・見積り

(2) 収穫量調査

職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積り  
ふるい目幅別の調査は、刈取り・もみすりした粗玄米を縦目ふるいにより、ふるい目幅別に選別し重量を計測

### 6 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果を集計し、巡回・見積り結果により補完

(2) 収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完

ふるい目幅別については、ふるい目幅別に重量の計測結果を集計

### 7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して

良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少 ない (不 良)	や や 少 ない (や や 不 良)	平 年 並 み	や や 多 い (や や 良)	多 い (良)
対 平 年 比	94% 以 下	95 ～ 98%	99 ～ 101%	102 ～ 105%	106% 以 上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり収量の比率です。  
 なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.8mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
- (8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいいます。
- (9) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量から減収が生じた面積をいいます。
- (10) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量より減収した量をいいます。

## 8 その他

- (1) この資料の確定した詳細な数値はホームページに掲載（平成28年2月予定）するとともに、その後刊行する『耕地及び作付面積統計』及び『作物統計』に掲載する予定です。  
 なお、確定した詳細の数値をホームページに掲載した後の正誤情報はホームページでお知らせします。
- (2) 水稻の作柄表示地帯区分  
 県北地帯・・・熊本市、荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、  
 宇土市、宇城市、合志市、下益城郡、玉名郡、  
 菊池郡、上益城郡（山都町を除く）  
 阿蘇地帯・・・阿蘇市、阿蘇郡、上益城郡（山都町のみ）  
 県南地帯・・・八代市、人吉市、水俣市、  
 八代郡、葦北郡、球磨郡  
 天草地帯・・・天草市、上天草市、天草郡

【関連リンク】

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

九州農政局ホームページアドレス

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/index.html>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1・2係

電 話：(代) 096-211-9111 内線 4943・4944

直通電話： 096-211-9863

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画係

電 話：(代) 096-211-9111 内線 4924

直通電話： 096-211-9845